

# あとがき

南丹市地域自立支援協議会での1年間の検討を経てようやくこの計画を策定しました。アンケート調査の設計、その実施、さらに当事者組織や事業所のみなさんに集まっていたいただいたワークショップ、シンポジウム、パブリックコメントの募集と検討など、振り返ると策定にむけて多くの仕事を事務局、協議会、そのもとでの作業部会の体制で実施してきました。ご協力いただいた、みなさまに心より感謝申し上げます。

計画策定の期間は、政府のレベルで障害者自立支援法の改定が議論されているまっただ中でもありました。わたしたちは、その動向に注目しながら、南丹市の実態をできるだけリアルに把握し、当事者と家族の願いにそった計画にどこまで迫って行けるか、真剣に議論を重ねたつもりです。

その国の障害児者福祉の姿は、その国の社会福祉全体の水準を示す物差しといってもよいと思います。社会的に困難を抱えた方々の人権を保障するために、必要な医療や療育、福祉ケア、教育を整備し、その人たちを市民社会が包み込み、支え、ともに歩むことは、政府のレベル、ひいては社会のレベルを示すものです。障害児者福祉の充実は、広く市民にとって安心できる社会につながる、それがわたしたちの基本的な姿勢です。

障害者福祉行政は自治体だけではなく、法律・財源・行政システムを含めて政府との関係で進められます。しかし、率直に言って日本の福祉サービスの供給システムは都市生活を前提に組み立てられているように思えます。南丹市のような地域から、過疎、中山間地域を含んだ障害児者福祉のありかたはどうあるべきかが、わたしたちの問題意識のひとつでした。今後、地方から積極的に課題提起をして行くことが、地方分権時代には重要だとおもいます。

私自身は、地域福祉計画に続いて、南丹市での二度目の福祉計画策定の仕事になりました。今回も、南丹市の当事者・家族のみなさんをはじめ、福祉関係者のみなさんと計画策定の議論を通して知り合いになれ、南丹市の福祉人材の豊かさを改めて実感しました。そして、地方からの福祉の提案の重要性を再認識しました。

今回の計画は当事者・家族のみなさんだけではなく、すべての住民のみなさんにとっても大切な計画です。お読みいただき、内容や推進方法について共有していただき、これからの南丹市の障害児者福祉の推進の輪が広がることを期待しております。

計画策定にご協力をいただいたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

平成24年3月

南丹市障害者計画及び第3期障害福祉計画策定委員会委員長 岡崎 祐司